

せんだい普及センターだより

BLOSSOM

Vol.90

令和8年6月30日発行



管内初！ 大郷町 オーガニックビレッジ宣言

■トピックス

- ・熱中症対策
- ・農薬危害防止

令和8年度プロジェクト活動紹介

ねぎの次世代担い手育成による産地の強化

【令和6年度～令和8年度】

対象：JA新みやぎあさひなねぎ部会 若手生産者5人〔大和町、大郷町〕

JA新みやぎあさひなねぎ部会では、次世代の担い手育成が重要となっていることから、若手生産者5人を対象に、ネットワーク形成・栽培管理技術の向上を支援しています。

先進地視察、講師を招いた研修会での情報交換等を通じてネットワーク形成の取り組みを強化することに加えて、巡回指導やねぎ通信発行による栽培管理技術の向上、春どりねぎの実証を通じた作期の拡大支援などに取り組んでいます。



▲ねぎの定植状況の確認

利府梨新規就農者のV字ジョイント栽培技術の定着と環境にやさしい防除技術の習得

【令和8年度～令和10年度】

対象：令和7年度新規就農者2人（Pear・カレッジ・りふ会員、JA仙台利府梨部会員）〔利府町〕



▲栽培を開始した日本なしV字ジョイント樹形

V字ジョイント樹形とは、従来のジョイント栽培では平棚上にあった主枝を70～80cmの高さまで下げ、側枝を斜立させた新しいジョイント樹形です。ジョイント樹形の早期多収性はそのままに、樹冠がV字型となったことで、従来の栽培より上向き姿勢の作業が少なく、省力・軽労化が図られ、機械の導入が容易な樹形です。

令和8年度からV字ジョイント樹形に取り組む新規就農者を対象に、栽培技術の定着と安定経営を支援します。また、近年の夏の猛暑等の影響により、防除が難しくなっているハダニ類やシンクイムシ類等について、天敵製剤の活用など、総合防除（IPM）の浸透にも取り組んでいます。

気候変動や難防除病害虫の対策技術導入によるトマトの大規模施設経営体の生産安定

【令和8年度～令和9年度】

対象：(有)サンフレッシュ松島、マキシマファーム(株)、(株)みちさき、(株)ベジランド佐藤、(株)未来彩園
〔仙台市、松島町、大衡村〕

仙台管内では、環境制御機器を装備した1ha規模の大規模トマト施設が複数稼働しており、データに基づいた栽培管理が行われています。一方、ここ数年の気候変動に伴い、着果数の減少や不良果の発生などの高温障害に加え、難防除病害である「黄化葉巻病」を媒介するタバココナジラミの防除が課題となっています。

普及センターでは、定期的な個別巡回を通じて、遮熱剤の塗布などによる高温障害の軽減や、気門封鎖剤、黄色粘着板などを活用したコナジラミの防除対策について、各経営体の状況に応じた技術導入を支援していきます。



▲難防除害虫の被害状況の確認

大和町落合相川地区における担い手法人の持続的な経営体制の構築

【令和8年度～令和10年度】

対象：(農)若木の里[大和町]

農事組合法人若木の里は、大和町落合相川地区の中心的な担い手として水稻・大豆など約60haで営農しています。同法人では、今後の構成員の高齢化を見据え、持続的な経営に向けた人材確保や営農管理の効率化に取り組んでいます。

普及センターでは、経営体制づくりや人材育成に向けた構成員の合意形成支援、スマート農業技術を活用した営農管理システムの導入検討などを通じて、地域農業およびその中核となる担い手法人の維持・発展を支援します。



▲営農管理システムの入力指導風景

Topics 1

熱中症に注意！「いのちをうばう、夏のひとり作業」



▲イラスト出典：農林水産省HP

全国では、令和5年、6年と連続で約30人以上が農作業中の熱中症により死亡しています。熱中症対策として、以下の予防のポイントを心がけましょう。

- 作業時間の工夫：高温時の激しい作業は極力避けて作業をしましょう。
- こまめな水分塩分補給：作業時は30分毎に200ml程度の水分補給と塩分も同時に補給しましょう。
- 単独作業は避ける：複数名で作業を行い、時間を決めて定期的に連絡を取り合いましょう。
- 熱中症対策アイテムの活用：冷却グッズや吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機を活用しましょう。

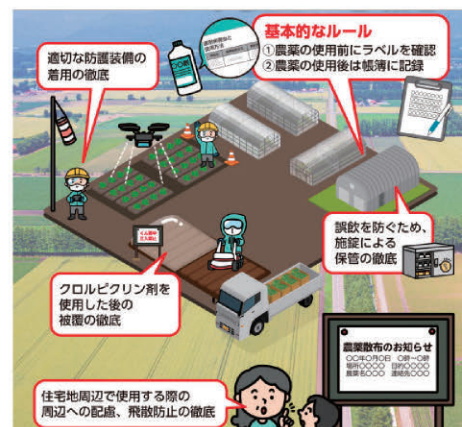
Topics 2

令和8年度 農薬危害防止運動展開中！ 「使用前、周囲よく見て ラベル見て」



農薬の不適正使用で、食品衛生法の残留基準値を超えて農薬が残留すると、出荷した農作物は回収や廃棄の対象となります。農薬を使用する際は、日頃から作業環境やラベルを確認し、使用記録の記帳を行いましょう。
〈残留基準値超過の主な原因〉

- ①隣接圃場からのドリフト：散布方向や散布時の風向きに注意しましょう。
- ②防除器具の洗浄不足：タンクの複数回洗浄や噴出孔までチューブ洗浄を徹底しましょう。
- ③農薬の誤使用：ラベル（対象作物・病害虫、希釈倍数等）を使用前に毎回確認しましょう。



▲イラスト出典：農林水産省HP

普及センター現地活動情報を下記にて発信しています

仙台管内農業普及現地活動情報 URL：<https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/wadai.html> →

ブログ「宮城の農業普及現場活動情報」 URL：<https://ameblo.jp/miyagifukyu/>



新指導農業士紹介

宮城県では優れた農業後継者の育成と地域農業を推進するため、次代の農業を担う人材の育成及び地域農業の振興に貢献している農業者を「農業士」として認定しています。

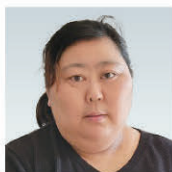
今年度、新たに3名の方が「指導農業士」に認定されましたので、紹介します。



にしつかただき
西塚忠樹さん
(大郷町)

令和7年に水田90ha、パイプハウス75aを経営する有限会社大郷グリーンファーマーズの代表取締役就任、環境保全型農業による地域農業の活性化を積極的に進めています。

本年4月に大郷町が行った「オーガニックビレッジ宣言」では、その取組みの中心的存在として活躍が期待されています。また、研修受け入れや若手職員の人材育成なども積極的に実施しています。



ささきこつえ
佐々木こづ恵さん
(仙台市)

水田58ha、パイプハウス30aに加え、農産加工施設及び農家レストランを経営する農事組合法人仙台イーストカントリーの理事であり、農産加工部門の責任者として味噌醸造・惣菜おにぎり製造部門の積極的な強化に取り組んでいます。また、農業大学校の研修生を受け入れるなど、農産加工分野での担い手育成にも貢献しています。



ごうすけ
郷古裕介さん
(多賀城市)

水田20ha、施設野菜10a、露地野菜6haの複合経営を実践しており、周年を通して収入が見込める安定した農業経営を実現しています。

野菜の周年出荷により、独自の販路を開拓、実需に応じた商品性の高い農産物を提供することでより高い収益確保に繋がっています。また、農業大学校の研修生を受け入れるなど若い担い手の育成に貢献しています。

表紙について

「オーガニックビレッジ」とは、環境に配慮した農業を推進する国の「みどりの食料システム戦略」に基づき、有機農業の生産から消費までを地域ぐるみで一貫して取組をすすめる市町村のことです。大郷町では有機農業の推進に向けた具体的な目標や方針を定めた「有機農業実施計画」を策定し、令和8年4月27日に「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。仙台管内では初めての宣言で、有機農業の拡大、有機JAS認証の取得更新支援、学校給食への提供、直売所への販売コーナー設置、飲食店での活用促進等に取り組む計画となっています。



▲こまつな・米
(有)大郷グリーンファーマーズ



▲ベビーリーフ
(株)夢実堂

仙台地方振興事務所農業振興部及び仙台農業改良普及センターの担当業務

仙台地方振興事務所農業振興部

調整指導班 TEL:022-275-9251

農地法、農業振興地域制度、農業経営基盤強化促進対策 等

農業振興班 TEL:022-275-9250

経営構造対策、農業金融、米の生産調整、園芸振興、農業適正使用、肥料取締法、みどり戦略関係 等

仙台農業改良普及センター

- ◆地域農業班 TEL:022-275-8320 管内市町の地域農業振興計画の支援、担い手や後継者の育成 等
- ◆先進技術第一班 TEL:022-275-8410 作物、野菜の生産技術改善、主要農作物の種子生産 等
- ◆先進技術第二班 TEL:022-275-8374 経営管理の高度化、花き、果樹、畜産の生産技術改善 等

発行：宮城県仙台農業改良普及センター（仙台地方振興事務所農業振興部）

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL: 上記に記載

E-mail: sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

FAX: 022-275-0296 (共通)

URL: <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

